

## <北海道熊研究会報>

第 47 号 2015 年 4 月 20 日

### ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会 | Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

### <熊有害獣の歴史>

明治政府はアイヌの土地であった蝦夷地＝北海道を明治政府の統治地とし、開拓するために、明治 2 年(1869 年 7 月)札幌に「開拓使」を設置し、開拓を開始した。開拓はアイヌから土地を奪う事であったし、他方、正に熊を殺し熊の生活地を奪う事でもあった。それから、147 年後の今も、往時と同じ状態で熊を殺し続けて居るのが現状である(2013 年度 567 頭殺、駆除 535 頭、狩猟 32 頭)。開拓時代は昭和 30 年代前半(1950 年代)で終わったのであるから、それから、50 年も経過した今日、今一度、熊の無制限の駆除を中止し、人と熊の有り様について、色眼鏡掛けずに冷静に、再考すべき時期だと言いたい。現場検証せず、想像で発言し、研究費と名誉のために行政に寄生している熊研究者なる連中、これらの研究者に北海道新聞もべったりであるが、熊問題は任せて置けないのが現状である。

### <最近の話題>

その①<2013 年 4 月 16 日、瀬棚町の西和子さん(52 歳)を襲い殺し、四肢(手足)の筋部を喰った熊、熊研究会報 8 号に記載済み：この現場には、後日、私は野生動物研究者の稗田一俊さんと如何なる地理的環境か見に行って来た>と<2014 年 4 月 4 日やはり瀬棚町で「アイヌキ A. victorialis」採りの女性が熊に襲われ、同行の男性が、鉈でその熊を叩き、難を逃れた、熊研究会報 24 号に記載済み>事件の熊が、現場で採取した熊の血痕の DNA が一致した事から、この熊を捕殺すべく、道庁では、この(2015 年)3 月上旬から 4 月末迄の期間、探索追跡や箱罟を用いての、掃討をしていると言う(北海道新聞、3 月 4 日付)。

門崎の見解→ 「その熊はもう、人を襲わない故、探索捕殺は不要である。死者の弔い殺戮が目的であれば別だが」私がこれまでに、熊を調査研究し、得た資料や体験から得た事を、色々な面から考究検討した結果、あの熊は人から鉈で血が出るほど、叩か

れた事から、人を恐ろしいものと悟ったのではないか。そして、あの熊は人と遭遇し難い、地所に行き、人を避ける生活に移行したのではないかと言う事です。ですから、この熊を、最早や執拗に追跡し、殺すべきではないと、言う事です。

この熊の年齢ですが、一昨年4月時点で、猟師は3歳ぐらいと、言っていたと、現場に行った報道人から聞きましたので、それが当たれば、今は5歳程ですね。

その②<2015年1月26日に、北海道東部の標茶町の民有林で、山林の枝打ち(幹から生ずる下枝を鋸で切る事)をして居た村上豊さん64歳が、穴から飛び出てきた熊に襲われ頭部損傷で死亡する痛ましい事故が発生した。熊研究会報46号記載済み>と<同年2月2日、道東の厚岸町の国有林で、毎木調査「個々の樹木調査を言う」中の岩田正則さん74歳が穴から飛び出てきた熊に襲われ負傷する事故が発生した。>

加害熊は前者蛙標茶の場合は新生子育児中の母熊で、後日穴の中に死んでいる幼子2頭が居たと言う。後者厚岸の場合は単独個体であった。いずれの穴も入口が大きく、熊が瞬時に飛び出る事が出来るサイズである。いずれも、熊は穴に近づく足音に気づき(門崎の実験では、穴の中に居ると、約10m先を歩く雪上の足音が、穴の中に響いて来る)、穴を保持するという本能的行動で、穴から飛び出し襲ったものである。同様の事件は1970年以降今日まで、今回のを含めて8件発生している。

<穴を放棄した熊は、何処に行ったか>

成獣の熊は、冬籠り穴を、複数有しています。その穴の場所を記憶していて、今回の様に籠もっていた穴を放棄した場合は、他の場所にある穴を記憶していて、その場所に行き、雪を掘り、その穴を探り当てて、その穴に入り、残りの冬籠り期間を過ごします。そのような事例は幾つも私は経験しています。

<今回の問題点>

① 熊の冬籠り期に(11月下旬から翌年の5月上旬)、施業する場合は、あらかじめ、熊穴がある地域か否か確認すべきなのにしていない。熊穴は昔から特定の場所にのみ、造られるので、老練な猟師は識っているはずですから聞けば良い。

② もしも、分からない場合は、熊穴は斜面に造られますから、そのような場所では、施業予定地に、10m間隔で、2m程の赤テープを10m間隔で、木の枝に付け下げておきますと、熊は環境の変化を嫌いますから、古穴があっても、熊は使いませんから、そのような対処をすべきなのにしていない。それば、今回の様な、事故は防ぎ得たと思う。

③ それにしても、加害熊を殺そうと、猟師がその熊を探索したと言う記事には、無知も甚だしいと私は感じました。降雪期に足跡は直ぐに雪でかきけされますから。

また、その熊も被害者であり、その熊は、人を襲う事も有りません(過去の経緯から明白です。

(了)